

出題分析			
試験時間	75 分	配点	200 点
		大問数	2 題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
【概評】			
〈現代文〉			
問題文の分量はやや長くなったが、難易度は例年どおり。近年と比較すると、語句や文学史に関する知識問題の出題がやや多いと言える。また、例年頻出の内容合致問題が出題されなかった。			
〈古文〉			
問題文の分量・設問の難易度は例年どおり。ただし、設問数は比較的多めで、現代文同様、文法を含む知識問題の出題が多いと言える。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 西成彦 『ラフカディオ・ハーンの耳』 ○行数：145 行 <input checked="" type="checkbox"/>	ラフカディオ・ハーンの日本語研究について述べた文章。問一～四の漢字・脱文挿入・語句問題は標準。問五の内容説明問題の選択肢口は、主語が「言語」となっている点が不適當。問六の空欄補充問題は、直後の引用の文末に注目する。問七の内容説明問題の選択肢口は「理解していたからこそ」が不適當。問九～十一の語句・空欄補充問題は標準。問十二の理由説明問題の選択肢口は「日本語の機能における」が不適當。 ※ (昨年度) 評論、116 行、15 問 (15)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
二	古文 (鎌倉・説話) 無住 『沙石集』 ○行数：50 行	主君に贈り物をする羽目になった貧しい侍が、家地を売って立派な贈り物を用意して報われた話。問一～三の語句・内容説明問題・現代語訳は標準。問五の理由説明問題は「恩もかぶらず」「貧しき侍」を踏まえる。問十二の内容説明問題は、侍が妻の説得に納得した経緯を考える。問十四の内容説明問題の選択肢口は、侍と妻はまだ出家していないため不適當。 ※ (昨年度) 平安・歌物語、47 行、14 問 (18)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。関西学院大学の問題文は通常 30 字/行 (19 行/段、2 段/頁)。

※昨年度のデータは、同一日の試験問題にもとづく。

設問構成 (設問数・形式・内容)													
大問 番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その 他
一	15問 (15)	15		2	3	2		4				4	
二	14問 (20)	20			4	1		1		2		12	

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

合格のための学習法
<p>〈現代文〉</p> <p>ジャンルを問わず、さまざまなテーマの長文を読む練習をしよう。また、漢字や語句問題などの知識問題も多く出題されるので、対策を怠らないこと。</p> <p>〈古文〉</p> <p>読解の際は、大意をとらえるだけでなく、各表現を丁寧に読む練習をしよう。関西学院大は文法や語句問題も出題頻度が高いため、基本事項の確認をくり返しおこなっておくとよい。</p>